

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立白石小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究では、一人一台の学習者用端末を活用しながら、かつ算数科の授業づくりを中心とし、全員が授業を行い、授業を見合うことで、授業力向上を図ってきた。これからも、感染対策を講じながら、児童の学力向上につながる取組を行っていく。</li> <li>・日々、新型コロナウイルスの感染対策をとりながら、児童が楽しく学校生活を送ることが出来るように、安心・安全な環境作りに努めてきた。学校における感染の広がりはなく、3学期終わりまで主な行事等を無事終えることが出来た。来年度も今年度同様の感染対策を行いながら、安心・安全な学校環境作りに取り組んでいきたい。</li> <li>・今後、非常災害時等の学年閉鎖、学校閉鎖に対応した一人一台学習者用端末の家庭への持ち帰りの円滑な運用に向けて、家庭への持ち帰り、安全で有効な活用について検討していく必要がある。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	心豊かに、創造性を発揮し、たくましく生きる子どもの育成
----------	-----------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①一人一台の学習者用端末の学校内外での活用推進を図る。</li> <li>②算数科の校内研究を中心とした授業力向上に努め、児童の学力向上を図る。</li> <li>③新型コロナウイルスや自然災害等から身を守るための指導を行い、健康で安心・安全な学校・家庭生活を推進する。</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で学力向上対策シートのマイプランを共有し、授業改善に取り組む。</li> <li>・学期ごとにマイプランの振り返りを行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で全国学習状況調査の課題を把握し、共通実践を共有することができた。</li> <li>・学力向上対策シートの共通実践のためのマイプランを共有し、振り返りと2学期に向けての授業改善を行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上対策シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は90%以上で、日々、授業改善を意識しながら、全職員で学力向上に取り組むことができた。</li> <li>・県の学習状況調査では、4・5・6年の全クラスで県の正答率を上回ることができた。</li> </ul>
	○校内研究の充実	○〈学校独自成果指標・任意〉自分の考えを相手に分かりやすく説明することができるという質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自分の考えをもち、それを相手意識をもって工夫して表現ができるよう、手立てをとりながら授業を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合わせて話し合う場面を取り入れることで、算数アンケートでは「友達に分かるように、自分の考えを話している」と肯定的に答えた児童が80%以上であった。</li> <li>・アンケートの実態把握と今後に向けての対策についての話し合い、また全体授業と研究会での話し合いをもとに、よりよい授業実践につなげていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容や発達段階に合わせて、工夫しながら話し合い活動を取り入れることができた。算数アンケートでは86%の児童が「考えを話したり話したりすることができた」と回答した。</li> <li>・夏休みの研修会、全学級での公開授業、研究授業及び授業研究会での話し合いにより、全職員でよりよい実践につなげていくことを意識が高まった。</li> </ul>
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童・保護者が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい道徳を実施し、全学級で授業を公開する。</li> <li>・授業後、ワークシートに振り返りや感想を書かせ、学級通信等で保護者に知らせる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい道徳を、学級の計画に合わせて授業を公開している。未実施の学級は、2学期以降に実施する。</li> <li>・実施した学級は、授業後に児童の振り返りや感想を書かせ、学級通信や学級通信などで保護者に知らせることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の計画に合わせてふれあい道徳の授業を全学級で公開し、授業後に児童の振り返りや感想を書かせ、学級通信や学級通信などで保護者に知らせることができた。</li> <li>・道徳に関するアンケートで、肯定的な回答をした児童は80%以上、保護者は90%以上であった。</li> </ul>
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員が80%以上 ●いじめ等の対応や指導を適切に行っていると答える保護者が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月「心のカード」を実施する。</li> <li>・人権集会(教室)を計画的に実施する。</li> <li>・学級経営案に沿って、学期ごとにPDCAを行う。</li> <li>・気になる児童については、毎週水曜日の職員連絡会で共通理解し、対応策について協議する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月「心のカード」を実施し、児童の実態把握に努めるとともに、必要に応じて聞き取りや事実確認を行うことで指導に役立っている。</li> <li>・9月の「ふれあいの職員連絡会」では「目標達成のための共通理解」の時間を共有し、対応策についても協議することができた。</li> <li>・人権集会については、2学期実施予定である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止等の対応や指導ができていると回答した教職員が好意的評価で100%、保護者が89%であった。いじめの早期発見や早期対応を継続的に行うことができた。</li> <li>・人権週間では、お互いを認め合う仲間づくりや人権講話、ほかほかツクリなどの取組を通じて、児童の人権意識を高めることができた。</li> </ul>
●健康・体づくり	○児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の目標や将来の夢について考える機会を授業の中に設定する。」</li> <li>・地域の方や様々な専門家の話を聞く機会を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康や学級活動の時間を活用し、将来の夢について考えの場を設定した。」</li> <li>・後期は外部との連携を図り、出前授業を行っていった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生でスクールカウンセラーの先生から「心の授業」を通して、中学校へ進学した時のことと関わり方について学ぶことができた。</li> <li>・卒業まで一人一人の成長に向けての準備などの活動を通して、将来のことについて見直しもしている児童が増えた。</li> </ul>
	●「望ましい生活習慣の形成」	○各学年の目標達成時間までに達する児童80%以上 ○朝食をとる児童90%以上 ○1日3回歯磨きをする児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月と1月に「はなまるすこやかチェック」を実施し、1週間、就寝時刻、朝ごはん、歯みがき、ゲームの時間等について振り返らせる。</li> <li>・実施前に保健指導を行い、目標を立てさせる。</li> <li>・保護者と連携し、生活の改善につなげる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はなまるすこやかチェック」の達成率は「はなまる」生活リズムを整えることの大切さ「メディアとのつきあひ」について指導を行い、児童の意識を高めた。</li> <li>・9月の「はなまるすこやかチェック」の達成率は「目標達成時間」に達する児童は72.6%、「朝食をとる」は89.5%、「歯みがきをする」は88.2%で、朝食と歯磨きについては目標を達成することができた。</li> <li>・実施前に各自目標を立てる際は、保護者と一線に立てるように、保護者の方も1週間を意図して過ごしてもらったことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月の「はなまるすこやかチェック」の達成率は「はなまる」生活リズムを整えることの大切さ「メディアとのつきあひ」について指導を行い、児童の意識を高めた。</li> <li>・9月の「はなまるすこやかチェック」の達成率は「目標達成時間」に達する児童は72.6%、「朝食をとる」は89.5%、「歯みがきをする」は88.2%で、朝食と歯磨きについては目標を達成することができた。</li> <li>・実施前に各自目標を立てる際は、保護者と一線に立てるように、保護者の方も1週間を意図して過ごしてもらったことができた。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○運動習慣の改善と体力づくり	○週に3日以上出て遊んだり、スポーツをした児童が80%以上 ○外遊びのための具体的な方策を考えている児童が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動でスポーツ大会を開催し、外遊びを推奨する。</li> <li>・持久走週間や長なわとび月間など定期的に取り組む。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体として約80%の児童が週に3回以上外で遊ぶことができている。しかし、高学年になると外で遊ぶ児童が減少しているため、今後も体を動かす機会を作っていく必要がある。</li> <li>・委員会で他学年と交流しながら体を動かす活動を設定し、外で遊ぶ児童を増やしている学級が増えた。</li> <li>・教師が児童を外で遊ぶように声かけができた。また、昼休みに遊ぶ時間を設定している学級が増えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長なわとび月間など運動をする機会を設定し、教師が外遊びを推奨し声かけを続けたりすることによって、体を動かすことの充実感を味わっている児童が増えた。</li> <li>・全体の80%以上の児童が、週に3回以上外で遊んだり、スポーツをしたりして楽しむことができていた。</li> </ul>
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外勤務時間の職員の1ヶ月平均が45時間以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日を定時退勤推進日とし、掲示板に掲げたり、個別に声掛けをしたりする。</li> <li>・毎月、自分の勤務状況を把握し、各自でタイムマネジメントしていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～10月の7ヶ月間において、1ヶ月平均は45時間以下であった。一番多い月は6月の40.4、少ない月は8月の8.37、7ヶ月間の平均は28.27。引き続き、45時間を超えない勤務時間となるように、声掛けを続けている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～10月の10ヶ月間における時間外勤務時間の平均時間は7.38であった。1ヶ月平均45時間以下を達成できた。教師が時間外勤務の自己申告表を作成し、月ごとの集計結果(1ヶ月合計、2ヶ月平均、3ヶ月平均、4～6ヶ月平均)を各自確認した。自分の勤務状況を振り返ることによって、各自が持っている働き方意識を高めてきた。今後、コロナ収束後の多忙にならない働き方を見つけていく必要がある。</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○学校組織、教職員集団としての働きやすい雰囲気づくり	○一人で抱え込まず、気軽に情報交換や相談ができる職場だと感じる職員80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有する場を設定する。(週1回の連絡会)</li> <li>・ストレスチェックを行い、各自の心の状態を把握する。</li> <li>・職員同士が気軽に話せる時間を設定する。(各学期に1回程度)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回の連絡会では、主に学級運営で困っていることや気になることを情報交換することができた。</li> <li>・9月頃に行ったストレスチェックで、各自の心の状態を把握することができた。</li> <li>・最終終了後に軽食を取りながら、職員同士が気軽に話せる機会が増え、交流を深めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会では学級経営で気になっていることについて情報を共有したり、困っていることについて相談したりして学校全体で取り組むことができた。</li> <li>・ストレスチェックを行い、各自の心の状態を把握することができた。</li> <li>・「ウォーキングランブル」に参加したことで、職員同士が気軽に話せる機会が増え、交流を深めることができた。</li> </ul>

評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果
OICT活用教育	○一人一台の学習者用端末の学校内外での活用推進	○学習者用端末の有効な活用法を熟知している教師が80%以上 ○学習者用端末を活用して主体的に学習することができる児童80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修で学習者用端末の活用法を提案する。</li> <li>・授業の中で学習者用端末の活用場面を仕組む。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修で講師を招き、学習者用端末の有効な活用法について共通理解を図った。</li> <li>・学校閉鎖中にリモートで健康観察を行うなど、有効に活用できた場面が増えた。また、ジャムボードやタブレットを有効に使える児童が増えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修で、学習者用端末を用いた実践について交流し、全職員が有効な活用法について理解することができた。</li> <li>・リモートでの授業を実施したり、授業参観でプログラミングの授業を行ったりすることによって、様々な授業場面で学習者用端末を活用することができた。</li> </ul>
	○図書教育	○年間読書100冊に達した児童が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多読賞や読書マスターの表彰、100冊達成の掲示を継続する。</li> <li>・図書館イベントの開催や公共図書館との連携、学校の読書活動のお知らせを図書館便りに伝えることで、多くの本と出会う機会を作る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100冊貸し出し達成が116人(71%)、1人あたり平均133冊借りることができた。</li> <li>・図書館便りや学級通信で学校での読書活動の様子やおすすすめの本の紹介を知らせることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100冊貸し出し達成が117人(95%)、1人あたり平均308冊借りることができた。多読賞の紹介や図書館での季節ごとのイベントが、読書の推進につながっている。</li> <li>・図書館便りや学校からの通信等で、学校での読書活動の様子やおすすすめの本の紹介が知らされた。</li> </ul>
○安全教育	○危機対応力の育成	○「学校は防災や不審者侵入などの対策ができている。」と答えた保護者が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の避難訓練を実施し、職員・児童の危機対応力を高める。</li> <li>・月1回の安全点検を確実に遂行する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者対応についての避難訓練を計画通り実施することで、職員・児童の危機対応力を高めることができた。</li> <li>・月1回の安全点検を確実に遂行できている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の避難訓練(不審者、火災、地震)の避難訓練を計画通り実施し、職員及び児童の危機対応力を高めることができた。</li> <li>・月1回の安全点検を確実に遂行することで、校内の安全管理に努めた。</li> </ul>

●...県共通	○...学校独自	◎...志を高める教育
---------	----------	-------------

一人一台の学習者用端末の活用については、全職員で研修を行い、授業活用のスキルアップを図った。検索機能だけでなく、Meetを活用した遠隔授業、Jamboardを活用した考え・作品の共有、Formsを活用したアンケート集計など様々な場面で有効活用することができた。次年度も、引き続き活用し、全職員のスキル維持、さらなるスキルアップを図っていく。また、家庭へ持ち帰る頻度も増やし、家庭学習の有効活用を検討していく必要がある。同時に、正しい活用ができるように、情報モラル教育の充実も図っていく必要がある。

算数科の校内研究を中心として、児童の学力向上を目指し、研修を深めてきた。学習状況調査が平均を上回る結果であったが、今後も知識・技能を確実に身に付けさせ、児童同士の対話を活性化し、深い学びとなるようにさらに授業力向上に努めていく必要がある。

特に新型コロナウイルスの感染拡大防止を意識し、全職員で日々感染対策を行ってきた。すべきことを確認し合い、情報共有し、児童の安心・安全な学校生活を保つことができた。今後も、安心・安全な学校生活の保持のため、心身を強く、たくましく育む教育に取り組んでいく。

5 総合評価・次年度への展望
----------------